

フィリピン中部 台風被災者への義援金のお願い

カトリック京都教区

+パウロ大塚喜直

2013. 12. 18

フィリピン中部を11月初旬に襲った台風30号(ハイエン、フィリピン名ヨランダ)は、未曾有の被害をもたらしました。台風によって多数の人命が奪われたほか、生活基盤が破壊されるなど、被災地の復興には、相当の時間がかかると思われます。

皆様には、既にカリタスジャパンへの義援金のお願いをしておりますが、今回、京都教区では、フィリピン宣教会の神父様方を通じて、直接に被災した教区に義援金をお送りしたいと思い、皆様にお願ひすることになりました。つきましては、2014年2月末日までを期限として、義援金の協力をお願いいたします。小教区では教区への送金の際に、振込明細に「フィリピン台風献金」とご記入いただきますようお願いいたします。修道会、学校、施設の皆様のためには、振込用紙を同封いたしましたので、ご利用いただきましたら幸いです。皆様のお祈りとご協力を宜しく願ひいたします。

<台風被害の概要>

今回の台風で被害を受けたところは、ビサヤ(Visayan)地域で、レイテ(Leyte)州とサマル(Samar)州です。パロ(Palo)大司教区の管轄下にあるレイテ州には、40の地方自治体と3つの主要都市であるタクロバン(Tacloban)、オルモック(Ormoc)、バイバイ(Baybay)があります。レイテ州は最も多くの被害を受けており、死傷者も多数出ています。

サマル州には、ボロンガン(Borongan)、カルパヨグ(Calbayog)、カタルマン(Catarman)、ナバル(Naval)の4つの教区があります。これらの教区も台風の被害を受けました。これらの教区は、すべてパロ大司教区教会管区に入っています。この台風によって約1200万人の人々が、被害を受けております。その中には、サマル州の近隣に住む人々も含まれています。死者の数は約6000人におよび、未だに2000人の人々が行方不明です。



台風の被害で屋根が無くなった教会

<パロ大司教区のMISSION BULIG>

パロ大司教区では、この台風で被害を受けた人々を援助することを目的として、MISSION BULIG (BULIGは援助という意味)という委員会が作られました。この委員会の名義はパロ大司教区となっていますが、パロ大司教区内の地方自治体だけを対象とするのではなく、パロ大司教区教会管区内の4つの教区の被害者をも対象としています。

この委員会は、宗教にかかわらず被害にあった人々に食料を提供し、必要に応じて医療活動を行います。また、台風で被害をうけた教会や家の再建のためにも働いています。通信手段である電話やインターネットの復旧、電気の供給も必要となります。これらの活動のためには、被害を受けた地域の教会とその地域の行政の力だけでなく、世界中の教会からの援助が必要となります。また、この委員会では近隣の教会から霊的指導者やカウンセラーを募り、被災した人々の霊的、また心理的なケアも行っています。



叙階式

台風が通過した後、最初の週は救助の働きが不十分であったために、身元不明の遺体が多く、多くの教会の敷地において集団葬儀を行い、教会の敷地内に集団の墓が作られました。教会の多くは台風の影響を受けていますが、ミサを初め他の秘跡は滞りなく行われています。ミサは、台風のために屋根が飛ばされた教会も含めて、すべての教会で捧げられています。自分の家を立て直し、家族の必要に答えなければならないこのような時に、なぜ教会に行くのかとインタビューされたある信者は、「私たちに残されているのは信仰だけです。このような時だからこそ、私も、そして家族も、ミサにあずかることが必要なのです」と答えています。

京都教区の皆様からのお祈りと温かい援助がなされますようお願いいたします。

(フィリピン宣教会ランディ師からの報告より抜粋)

先月、11月25日に7人の司祭と1人の助祭が叙階されましたが、叙階式は屋根のない教会で行われました。